

東京外環
(関越～東名)

GAIKAN

2006年5月

外環journal

ジャーナル

第23号

〔発行所〕 国土交通省関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所

〒158-8580 東京都世田谷区用賀4-5-16 TEビル7F TEL/FAX 0120-34-1491 (外環専用ダイヤル)

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gaikan/>

東京外かく環状道路(関越道～東名高速間)沿線区市長意見交換会(第6回)

これまでの検討について報告、今後について意見交換



国土交通省と東京都は4月17日、沿線7区市の区長・市長と意見交換する沿線区市長意見交換会(第6回)を開催しました。沿線区市長意見交換会は平成15年11月以来、2年半ぶりの開催です。会議の冒頭、国土交通省と東京都からこれまでの検討経過や、「現在、都市計画変更案及び環境影響評価準備書をまとめる準備を行っているところ」等と報告、これに対し区市長からは、次のような意見が出されました。

〔練馬区・志村豊志郎区長〕
必要性について合意が
図られてきたと認識

- 練馬区としては、区としての立場のみならず、首都圏を構成する自治体としての立場から必要な意見をこれまでにも申し上げてきた。
- 外環の必要性については、総じて合意が図られてきたと認識している。
- 現在、外環が大泉で止まっている不自然な状況により、周辺地域はもろろのことで、区内の交通ひいては都内の交通に様々な問題を引き起こしている。
- 大深度地下を活用した外環の早期整備がぜひとも必要であり、進めてほしい。
- 青梅街道インターチェンジについては、将来に禍根を残さないためにも、フルインターチェンジによる整備が必要であると考えている。

- ただし、インターチェンジを設置する地域については、緑豊かな環境の創出などに配慮しつつ、少しでも多くの方の理解と協力が得られるよう十分な対策をとっていただきたい。
- その上で、今後の手続きについては、国、都の責任において進めていただきたい。
- 地上部街路の取り扱いについては、適切なスケジューリング管理のもと、積極的に議論を行い早期に結論を出していくことを強く望む。

- また、西武新宿線の立体化などの周辺基盤整備や上石神井地区などのまちづくりについても推進していく必要があると考えている。あわせて、生活再建救済制度についても、中断することなくその適切な運用が求められる。これらについても十分な対応をお願いしたい。

〔杉並区・山田宏区長〕
(代理 小林義明助役)

住環境の影響と
対策を明らかに

- 外環については、大深度地下方式により、早く、安くつくることが重要と考えている。
- 青梅街道インターチェンジについては、外環本線を整備すれば、インターチェンジが設置されなくとも、国のデータに示されているとおり、環状8号線の渋滞解消効果が期待でき、また、ハーフィンターの整備に多額の費用がかかることなど、設置の必要性は低いと考えている。
- 仮に、国及び都が練馬区側にインターチェンジを設置するとしても、これに伴う通過交通の流入や交通渋滞などの交通問題と、善福寺池や地下水脈への影響など、住環境への影響と対策を明

らかにするよう強く要望する。
●今後の進め方については、区民が安心してできるように丁寧に行っていただきたい。また、地上部街路の外環ノ2については、都は地元の意見を十分にふまえて、慎重に取り扱うよう強くお願いする。

〔武蔵野市・邑上守正市長〕
必要性については認識
住民の安心が前提

- 外環本線に関し、首都圏域の道路交通機能という面においては、都市計画上の必要性について基本的に認識しているが、大深度を活用した場合の地下水や排気ガス等の環境面、地震時や事故時等の安全性等については十分に検討し、不安を抱えている住民が安心できるように

4月21日・定例記者会見

石原東京都知事が発表 「外環の都市計画変更に着手」

外環(関越道～東名高速間)の整備について、石原慎太郎東京都知事は4月21日の定例記者会見で、次のように表明しました。

外環道は、日本社会全体のダイナミズムを高め、国際競争力の向上や、国家の繁栄、東京の発展に不可欠な道路であり、早期整備が必要。

平成13年に当時の扇国土交通大臣と視察し、約30年間凍結されていた外環道が動き出した。

地元との話し合いはこれまで330回におよび、この17日には、沿線の区長・市長からも意見を聴いた。

このような取り組みを重ね、今後、都と国は外環道の必要性や環境対策



※東京都公式ホームページ「石原知事定例記者会見録(平成18年4月21日)」より抜粋
(<http://www.metro.tokyo.jp/GOVERNOR/KAIKENTEXT/2006/060421.htm>)

●ご出席の区市長

世田谷区長 熊本哲之	熊本市長 矢野裕
狛江市長 長友貴樹	三鷹市長 清原慶子
調布市長 長友貴樹	武蔵野市長 邑上守正
杉並区長 山田宏(代理 小林義明助役)	練馬区長 志村豊志郎

努めてもらうことが、外環整備の前提。
●地上部街路(外環ノ2)については、吉祥寺の良好な住宅地を分断するため、まちづくり面・環境面からは、現時点では必要ないという認識である。
●国・都は情報提供を十分に行うとともに、地元との対話を重視し、より一層住民との対話を継続し、丁寧なプロセスを踏んでいただきたい。計画案の公表に際しては、突然計画案を出すことのないようにしてほしい。(2ページへ続く)

〔三鷹市〕・清原慶子市長 具体的解決策提示など 引き続き慎重な検討を

●三鷹市は従来より、国及び都が説明する外環の必要性については一定の理解をしてきた。しかし、外環の整備により沿線市区の中では最も大きな影響を受ける。現状では都市計画道路などの周辺都市インフラの整備が不十分であり、そのまま外環を受け入れられる状況ではない。三鷹市が新たに抱える課題や問題点について、具体的な解決策や客観的なデータの提示など、引き続き慎重な検討をお願いしたい。

●三鷹市では、昨年9月以降、議会や関係審議会、助言者会議などにおいて、三鷹市のまちづくりについての様々な問題があるか鋭意検討を積み重ね、この3月には「三鷹市の基本的な考え方」をまとめた。また、今月中には外環計画に対する市としての要望書も提出することとしている。4月21日に市の都計審に諮り正式に決定し、早い段階で出したいと考えているので、誠意ある回答を求めたい。市としても、その内容について市民に対し説明していくので、こうした市のスケジュールも十分に配慮してほしい。

●今後も国及び都には、市民の疑問や懸念に応えるべく、課題に対する解決策やデータの提供など、今後も外環の整備により環境、交通対策、土地利用など大きな影響を受ける地域の立場を十分に踏まえて、慎重に取り組んでいくことを約束していただきたい。今後とも、影響が大きければ計画を止めることもありうる、との真摯な態度で進めてほしい。

〔調布市〕・長友貴樹市長 市民生活への影響を 最小限にすべし

●外環について、その必要性や周辺まちづくりを進めるなどの基本的な考え方に関しては、一定の評価はしているが、市民生活及び自然環境などへの影響を最小限に留めることが必要不可欠である。

●市域の課題である道路ネットワークの形成、緑ヶ丘のいわゆる三日月地域における地域分断等の対策、環境対策及び防災性の向上などの解決に向け、国及び都の積極的な取り組みと調布市への支援策を要請する。

●現在進められている生活再建救済制度による買取りについては、大深度区間を含め生活設計に支障がある市民からの希望が多く、引き続き、必要な財源を確保し、適切な対応を要望する。

●特に市民生活への影響が危惧されている環境問題や地域分断などについて、隣接市との連携のもと、もっと具体的に議論していくことが望ましく考えている。あわせて、市民の理解が得られるよう、話し合いの場を設けるなど積極的かつ丁寧な情報交換を要望する。

〔狛江市〕・矢野裕市長 住民への情報提供 合意形成の努力を

●大深度トンネルが地下水に与

える影響、地震など災害や事故に対する安全対応などについて十分留意し検討し、住民に情報提供してほしい。

●P-Iに関しては、反対者を切り捨てるのではなく、一致点を見出すよう、合意形成の努力をしてほしい。外環のような大事業で、P-Iが合意形成にどれだけの役割を果たせるのか、注目している。

●交通量などのデータは、正確性が求められる。本四架橋など他の事業で見込み違いが見られるが、判断を誤る虞がある。将来の負担となることのないよう、十分検討してほしい。

●また、区民にわかりやすく丁寧の説明するとともに、地域P-Iを活用するなど地域の意見を聴く機会を十分に設けていただきたい。

●外環が周辺環境と調和した高速道路として、また、住民からも歓迎される道路として整備が進むようお願いする。

●野川・国分寺崖線などの貴重な環境を踏まえ、世田谷区の自然環境の保護及び保全並びに生活環境への影響について特段の配慮をお願いしたい。

が期待できるため、地下化を前提として早期の整備が必要であると考えます。

●野川・国分寺崖線などの貴重な環境を踏まえ、世田谷区の自然環境の保護及び保全並びに生活環境への影響について特段の配慮をお願いしたい。

●東名高速道路以南の早期整備は重要であり、具体的な取り組みを早急に進めていただくことを強く要望する。

●周辺の都市計画道路の整備を始めとした地域の街づくりについても、国や都による支援及び協力について特段の配慮をお願いしたい。

〔世田谷区〕・熊本哲之区長 住民から歓迎される 道路として整備を

●外環は、広域的な視点から首都圏に必要な道路であるとともに、世田谷区にとっても環状8号線等の幹線道路の渋滞の緩和、大気環境等の改善

国土交通省・東京都の意見

必要性については概ね理解が得られた 沿線地域への影響については十分配慮していく

国土交通省

今後P-Iを続け 丁寧に進めていきたい

●外環の必要性については、概ねご認識いただいた、と理解している。

●懸念されている、外環による沿線地域への影響については、十分配慮していく。十分な環境対策を講じ周辺環境に調

和した計画をしたいと考えている。

●各地域の環境問題については、地元の方々の意見を聴きながら対策を講ずるとともに、極力沿線への影響を少なくするよう努力していく。

●今後もP-Iを続け、丁寧に進めていきたい。

●頂いた意見を十分に尊重しながら、また、引き続き地元の意

各地域で引き続き 意見をお聴きしています。



地域P-I

国土交通省と東京都は、沿線区市で1月、2月に引き続き地域P-I(意見を聴く会、オープンハウス)を開催し、外環を整備した場合の環境への影響や保全対策について取りまとめた資料などについて新たに説明し、計画の具体化に向け、意見をお聴きしました。3月には7区市の10会場で地域P-Iを開催し、延べ700名の参加がありました。

P-I外環沿線会議

P-I外環沿線会議が4月13日と5月12日に開催されました。

4月13日の会議では、3月までの地域P-Iについて意見交換が行われ、特にジャンクションの位置や構造、インターチェンジ設置の是非、環境問題などについて意見交換を行いました。また地域P-Iの進め方について意見が出されました。

インターチェンジの設置、環境への影響など整備計画全体に関する意見のほか、地上部街路の整備や交通集中の問題など、それぞれの地域の問題についても多くの意見が出されました。

5月12日の会議では、沿線区市長意見交換会(4月17日)と石原東京都知事記者会見(4月21日)の報告を行い、委員からは知事会見の内容について質問や抗議が出されました。また、これからP-I外環沿線会議でどのような議論を行うのかについて今後検討する必要がある、とされました。

東京都 地域の課題・要望には できる限り支援

●外環本線の整備の必要性については、概ね理解が得られた。環境に対する配慮や地元

見を聴きながら外環計画の具体化を早急に図ってまいります。

対応について、責任ある丁寧な取り組みをしていく。

●外環整備とあわせて、地域の課題・要望について、国と連携してできる限りの支援をしていきます。

●外環2では、3つの検討の方向に基づいて、本線の具体化を踏まえて検討していきます。

●国と一緒に進んで、引き続き、丁寧でわかりやすく、きちんとした説明を行い、進めていきます。

地域PIでは多数のご来場、ご意見をいただき、誠にありがとうございます。いただいたご意見に対する対応をとりまとめ、今後も広く意見を伺いながら、計画検討を進めていきます。